



セルフ授業にチャレンジ!

みなさんが小学生の時は、どのような授業スタイルでしたか？

今、学校現場では盛んに「授業改善」という言葉が叫ばれています。それは、学習指導要領が、各教科の内容・目標・評価についてのみならず、指導法にまで言及していることが大きく関係しています。そこでは「主体的・対話的で深い学び」が求められています。

そのため、教師側からの一方通行型授業や一問一答型授業に多く見られる、「教師の教え込み」を減らしていく必要があります。私が赴任する前から本校においてもその模索がなされています。手立ての一つに「セルフ授業」があります。高知県の複式学級を有する学校に職員が出張して授業を視察し、その有効性を本校でも定期的に確かめていました。

先日、本校複式学級でもこのセルフ授業で授業を行いました。担任はほとんど口出し・手出しをしません。それでも子どもたちは自分たちでどんどん進めていました。

- ◇ 6年生…タブレットでデジタル教科書の説明動画を有効活用して進めていました。自分の間違いに自分で気づきながら学習を進めていました。
- ◇ 5年生…同じくタブレットを使いながら、最後は自分で発展学習まで考えて進めていました。綺麗にすらすらとノートをまとめていく様子は圧巻でした。
- ◇ 4年生…時には一人、時には二人で相談しながら、自分たちの考えを黒板に書いたり説明したりしながら学習を進めていました。
- ◇ 3年生…一番人数が多いのですが、ガイド役(進行)の子を中心に、自分たちで進めます。終盤、「400です。」に対して「同じです。」という声が揃う中、「違うと思います。」と言った、勇気ある発言を基に、もう一度自分たちで考えなおし、学びを深めることができました。

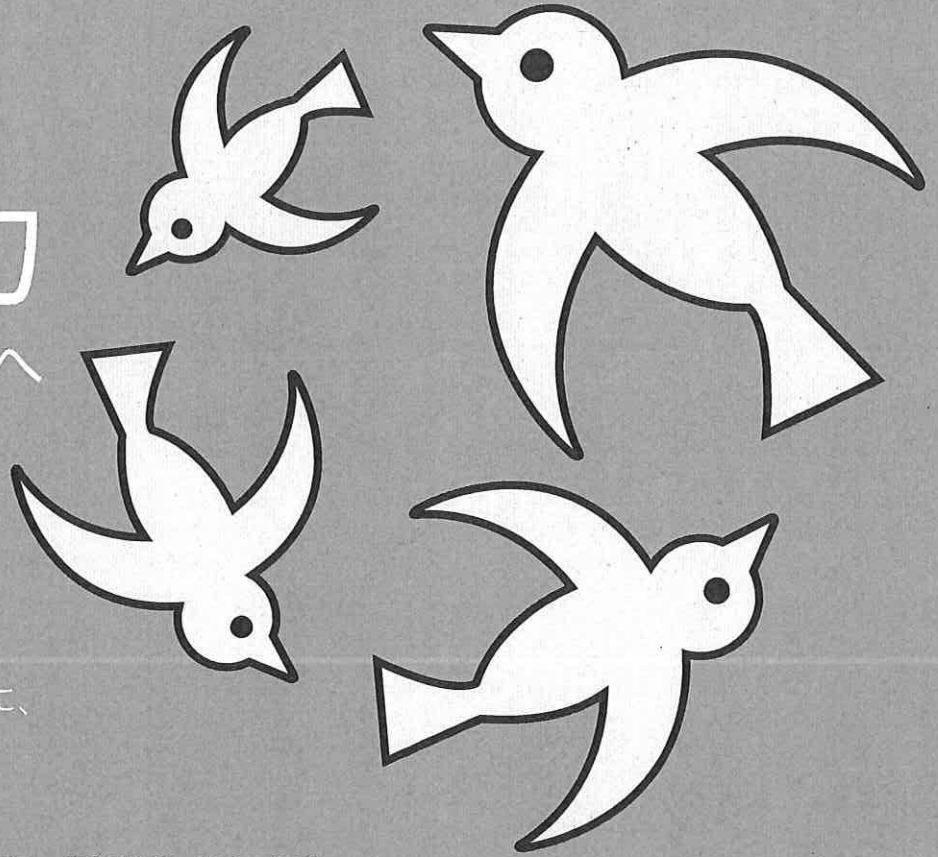
「先生、分かりません、教えてください。」と言われても我慢したことで、子どもたちは集団の力を最大限に発揮しながら学ぶことができたのです。どの子も授業の主人公として生き生きと輝いていました。自分たちで進める不安が、最後には自分たちで解決した喜びに変わっていました。

教師が教え込む授業から、子どもたちを主体的な学習者として育てていく授業への転換は、教え込むスタイルが身につけてしまっている教師にとって簡単ではありません。セルフ授業はあくまでも通過点です。任せることで子どもが変わる、伸びることを知ったうえで、教師も主人公としてどのように関わっていけばさらに子どもたちを伸ばすことができるのか、今後とも研究を重ねていきます。

また、1,2年生も参観に行きました。「自分たちで進めていてすごい!」という憧れを感じてくれたようです。学習の仕方も良き伝統として引き継いでほしいと思います。

生きる力

学びの、その先へ



学校で学んだことが、
明日、そして将来につながるように、
子供の学びが進化します。
新しい学習指導要領、スタート。

小学校：2020年度～ 中学校：2021年度～ 高等学校：2022年度～

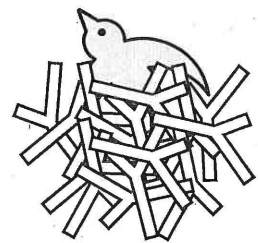
幼稚園は、2018年度に新しい幼稚園教育要領がスタート。特別支援学校は、小・中・高等学校学習指導要領に合わせて実施。

改訂に込められた願い

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、
それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。

そして、明るい未来を、共に創っていききたい。

新しい「^{がくしゅう し どりょう りょう}学習指導要領」には、そうした願いが込められています。



「学習指導要領」とは？

全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、
文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）
の基準です。およそ10年に一度改訂され、これを基
に子供たちの教科書や時間割が作られます。

小学校で学ぶ教科等は？

太字が新設・変更部分です。他の教科等についても、
育成を目指す資質・能力を明確にして、授業を改善します。
※2018年度から一部先行実施しています

- ・国語
- ・音楽
- ・**特別の教科 道徳**
- ・社会(3～6年)
- ・図画工作
- ・**外国語活動(3,4年)**
- ・算数
- ・家庭(5,6年)
- ・総合的な学習の時間(3～6年)
- ・理科(3～6年)
- ・体育
- ・特別活動
- ・生活(1,2年)
- ・**外国語(5,6年)**

くわしくは文部科学省「学習指導要領ウェブサイト」へ
各界で活躍中の著名人へのインタビューも！

URL http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm?mdia=pamp01



初等中等教育局教育課程課

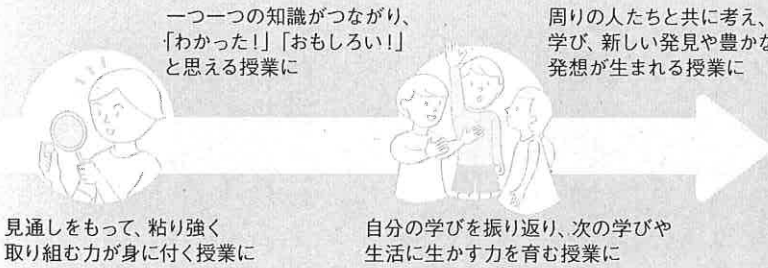
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2 03-5253-4111 (代表)

「生きる力」を育むために

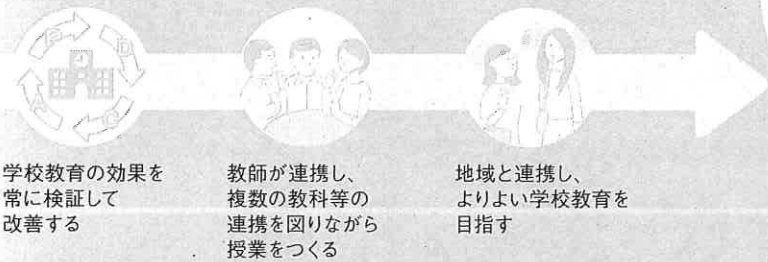
子供たちの学びはどう進化するの？

主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング) の視点から

「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。



カリキュラム・マネジメントを確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。



学んだことを人生や社会に生かそうとする

学びに向かう力、人間性など

実際の社会や生活で生きて働く **知識及び技能**

未知の状況にも対応できる **思考力、判断力、表現力など**

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、**三つの力をバランスよく育みます。**

新たに取り組むこと、これからも重視することは？

下記のほかに、「体験活動」「キャリア教育」「起業に関する教育」「金融教育」「防災・安全教育」「国土に関する教育」なども充実します。

プログラミング教育

コンピュータがプログラムによって動き、社会で活用されていることを体験し、学習します。

外国語教育

「聞くこと」「話すこと」に加えて、「読むこと」「書くこと」の力を育みます。

道徳教育

自分ごととして「考え、議論する」授業などを通じて道徳性を育みます。

言語能力の育成

国語を要として全ての教科等で子供たちの言葉の力を育みます。

理数教育

観察、実験などにより問題を科学的に解決する学習活動や、データを分析し、課題を解決するための統計教育を充実します。

伝統や文化に関する教育

我が国や郷土が育んできた日本の伝統や文化を学びます。

主権者教育

社会の中で自立し、他者と連携・協働して社会に参画する力を育みます。

消費者教育

自立した消費者を育むため、買物の仕組みや消費者の役割などについて学習します。

特別支援教育

全ての学校で障害に応じた指導を行い、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばします。

【特別の教科 道徳】では、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ますための評価（記述式）を行います。特定の考え方を押し付けたり、評価を入試で使ったりしません。

お子さんが学校で学んだことについて、ご家庭で、ぜひ話してみてください。

保護者の皆さまの働きかけが、子供たちの「生きる力」を育む大きな原動力になります。保護者の働きかけがある子供の学力は高いという傾向があります。

例えば…

- 学校や友達のこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が多い。
- テレビ・ビデオ・DVDを見る時間などのルールを決めている。
- テレビゲーム(携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む)をする時間を限定している。
- 子供に本や新聞を読むようにすすめている。
- 子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。
- 地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを重視している。

(平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究)